

日本の名車・旧車を愛する本

GT-Q

series volume 2

CARTOPMOOK 2012年5月26日発行

世界進出の衝撃と喝采 フェアレディZ

S30・31 / S130 / Z31 / Z32





メッキボディが眩しい
6連スロットル

1974年式のS30ながらメタリックイエローとメッキのコントラストで強烈な個性を主張する。前後スポイラーとオーバーフェンダーを装着。価格は1080万円



純正形状の縦デュアルマフラーはもちろんワンオフのステンレス製。タイヤサイズはF205/15、R225/15



外装同様ヘッドカバーもメッキとされたRB26エンジン。完全オーバーホールした上で6連スロットルとされた



派手な外観の割にはノーマル然としている室内。こちらは油圧パワーステアリングとオートエアコンの組み合わせ

SHOP INFORMATION

ロッキーオート

▶ 44-0865 愛知県岡崎市明大寺町字大塚55-31

▶ TEL 0564-58-7080

▶ 定休日/無休

<http://www.rockyauto.co.jp/>



東名・岡崎インターからクルマで20分ほどの、竜南メインロード沿いに位置するロッキーオート。日産旧車を数多くストックしている



旧車+RBエンジンの仕掛け人、渡辺喜也さん。毎年秋にポートメッセ名古屋で開催されるオートレジェンドを主催している

東名高速・岡崎インターを出て26号線を蒲郡方面に向かい、光が丘女子高校交差点を右折すると見えてくるロッキーオート。RBエンジンに換装する手法を始めてすでに10年以上の歴史があるが、その仕様は今も進化している。ごく最近ではケンメリにマルチリンクサスペンションを組み込んだ仕様も発表しており、エンジンだけではなく車体トータルでチューニングを施してくれるのだ。フルノーマルの240ZGからL型チューンなども在庫している。

わからないが、ボディの補強はほとんどなし、快適装備を施していない、いわばRBエンジン搭載のベース車両とでもいった仕様が販売しているのだ。
仕上がった状態のボディにRBエンジンを載せて価格は600万円台。ここにエアコンやパワーステアリングなど必要だと思ったものを選んで装着すればいい、という嬉しい内容。なぜ低価格が実現できたかといえば、複雑な電装パーツを装着する手間暇が省け、ベースボディの状態が

デイトの修復が国内仕様比べて比較的ラクだから。国内仕様のS30はアメリカ仕様と比べ、どうしてもサビが進行していて塗装を剥ぐと腐食個所が見つかるものだ。これがアメリカ仕様、特に西海岸近辺で乗られていた車両だと驚くほどに腐食個所が少ないもの。
製造廃止となり、無くなっているパネルをイチから作ることを考えたなら、アメリカ仕様をベースにすることが、いかに手早く作業できるか分かるだろう。



カーボンボディを纏った スペシャル S30

1974年式のS30ベースにRB30エンジン、ロールケージ、電動パワステ、オートエアコンを組み込んだコンプリートカー。価格は1280万円

Part.1 **ROCKY AUTO** ロッキーオート

文：中森 晶
写真：谷井 功

RBエンジンスワップで甦る旧車たち



フロントフェンダー内側にパイプフレームを追加して、RBエンジンによるパワーアップに対応させている



ロッキーオートのコンプリートカーはメインフレームやコアサポートを純正より強固な材質で作直しているのが特徴



ボディ補強だけでは飽きたらずエンジンルーム内にはパイプフレームが追加されている



輸出仕様のブロックを使ってフルチューニングしたRB30エンジン。吸気はソレックス50φを装着する



強力なトルクに耐えるようリアサスはほぼ新規製作。車高を落としてもキャンバー変化しないのだ

ベースボディからの製作で高性能を引き出せるシャシー

旧車のファンには完全ノーマル派とモディファイ派に分れることが多い。だが、泣く子も黙る徹底したチューニングで、どちらのファン層からも一目置かれている存在がロッキーオート。その真骨頂は、R32以降のスカイラインに搭載されたRB型エンジンを搭載して公認取得したコンプリートカーたちだ。40年近く前のハコスカ・ケンメリなどに載せたのだから、圧倒的な性能を手にすることができ、新しい旧車の乗り方として支持を集めているのだ。

発想自体は誰もが思い浮かべる。なぜならRBエンジンは直列6気筒のL型エンジンをベースに進化させたともいえるのだから。問題になるのが、その魅力でもあるパワー。ロムセッティングとマフラー交換で軽く3000psを超えるRBだから、1200ps前後で設計されたボディがもつはずもない。しかも経年劣化やサビ・腐食で剛性が落ちた状態だから、レストア以上の作業が必要になるのだ。

そこでロッキーオートは、モノコックボディのメインフレームを作り直したうえで左右を連結させたり、追加パイプフレームなどにより車体剛性を大幅に引き上げている。当然ベースボディは一度ドンガラの状態までバラされてレストアに近い内容の鈑金が施されることになる。



本物の240ZGベースのRB30チューン

年式フェアレディ 240ZGの本物をベースにした贅沢なRB30仕様。外装はノーマルのままなのがポイント。価格は1580万円



オーバー角ゼロとするためワンオフの足回りと与えてストレート形状の排気系もワンオフだ



ハイカム+Vプロ制御のRB30エンジンの吸気はスポーツインジェクションを採用。スロットルは50φ



ロールケージが張り巡らされた室内。もちろん電動パワーステアオートエアコンで快適に運転できる

オリジナルS30の良さを継承しながら快適性も重視

同じ手法はフェアレディZでも当然行われる。代表取締役の渡辺喜也さんが勧めるフェアレディZは、初代S30。ボディが軽いから前述の補強をしても大した重量増とならず、小さなボディサイズは操縦性にも優れる。RBエンジンが載るS30……、そこにはめくるめく感動的な走りが待っている。

以前はターボ仕様も多かったのだが、最近ではNA仕様が増えてきている。旧車にはマックスパワーより高回転まで回す楽しみ方が似合うからで、NAならではのフイリリングのためキャブレター仕様やスポーツインジェクション仕様を用意。排気系はほぼ全てワンオフ製作してエンジン内部をチューニングせず、耐久性と扱いやすさを大切にしている。

そして、ここからが肝心なのだが、RBエンジンに換装することですぐに入れるものも一つある。旧車に一番欠けている快適性だ。旧車といえば空調は暖房のみで、太いタイヤを履かせることで重くなったステアリングと格闘する……、そんなイメージではないだろうか？

ところがロッキオオートではRBエンジンに変更すると同時に、補器類や各種油圧装置も移植して、現代の路上で快適に楽しめることをコンセプトとしている。

リング、パワーウインドウなどを組み合わせ、快適なS30を提供してくれるのだ。

剛性を確保した車体にパワーアップしたエンジンによる走りは現代の高性能車に引けを取るものではないが、それを操作する室内環境も現代のクルマとほぼ同格。この二つが高次元でバランスしたことで、S30の良さを殺すことなく現代的なクルマへと成長させているのだ。このS30らしさが非常に大切なところで、ドライバーに伝わる路面感覚やエンジンフィール、コナリリング性能を殺していない。RBエンジンは前述したようにL型エンジンのブロックをベースにツインカムヘッドを組み合わせて現代化させたともいえるから、パワー特性や回転フィールリングがL型によく似ているのだ。そこにロッキオオートオリジナルの吸排気系が組み合わされると、エンジンの鼓動と排気音が高性能なL型に乗っているかのように錯覚味わせてくれるのだ。

コンプリートカーは高額だがアメリカ仕様で低価格を実現

これらのRBエンジンを搭載したS30は、コンプリートの状態で900万円からといったところで販売されることになる。正直なところ購入できるのはごく一部の層となるだろう。最近になってこの状況に変化も出て来ている。アメリカのダットナ